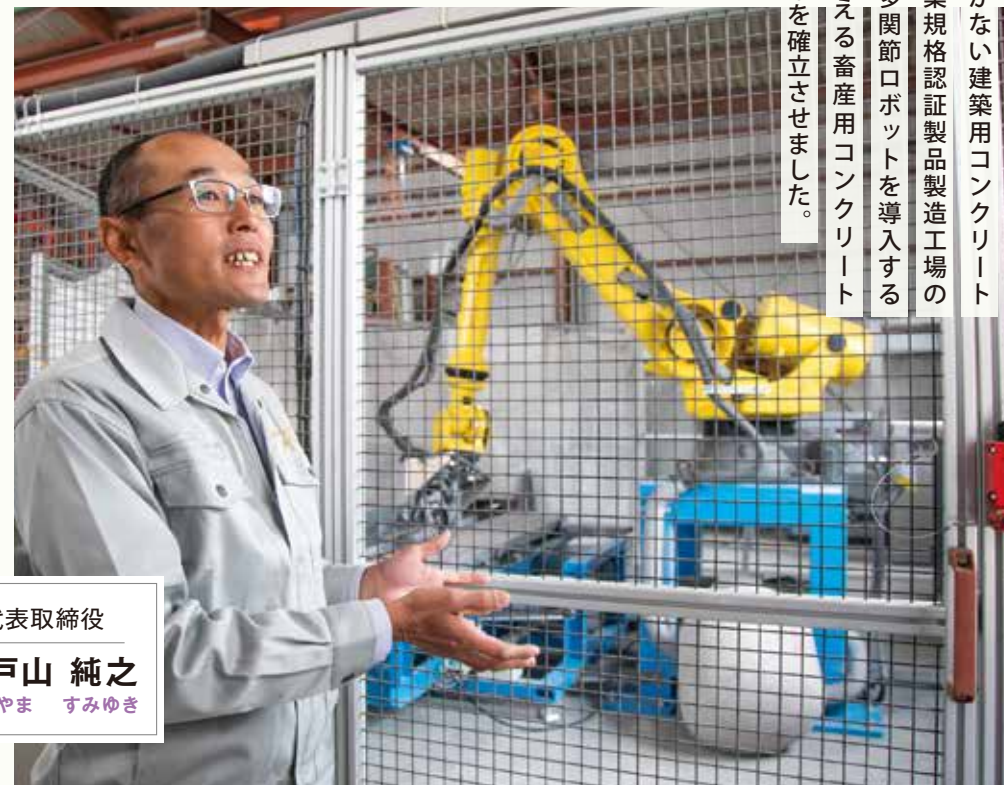


「有限会社 瀬戸山ブロック工業所」

コンクリートスノコで

地域を支える畜産へ貢献

宮崎県内で2社しかない建築用コンクリートブロックの日本産業規格認証製品製造工場の1社である同社。多関節ロボットを導入することで、需要が増える畜産用コンクリートスノコという新事業を確立させました。



代表取締役

瀬戸山 純之
せとやま すみゆき

ものづくりへの想い

自分たちの手で新しいものを開発することができるのが、ものづくりの一番面白いところ。これまで存在していなかったものをつくり出せる可能性があるなんてワクワクするじゃないですか。

今後の展望

コンクリート製品製造現場でのロボットの活用はまだまだ未開拓。活用方法には大きな可能性を感じます。ロボットを使ってコンクリート製品を加工し、これまで見たこともないような製品を作って見たいです。



バリを除去する前と後のコンクリートスノコ。バリが残ったままだと豚の蹄を傷付けてしまい病気になってしまう可能性があります。



コンクリートスノコの上で生活する豚。衛生面と管理のしやすさからコンクリートスノコを床材として使用する農場が増えており、ある調査によると全養豚農場の約70%で導入されています。

多関節ロボットの導入で生産量も作業環境も改善。



昭

和39年の創業以来、コンクリートブロックの製造販売を行ってきた同社。人口減少に伴う建築用コンクリートブロックの需要減少への危機感から、新たな事業を模索していった。そんな時、畜産用コンクリートスノコの製造依頼があったのです。

畜産用コンクリートスノコとは、主に養豚場の床材として使用されるコンクリート製品で、コンクリートスノコを使用した豚舎は従来のおがくずを敷いた豚舎より衛生的で糞尿処理もしやすいのが特長です。

「ずっとコンクリートを扱ってきた自信があったので簡単に考えていたのですが、いざつくってみるとバリの除去（製品の縁にできる角張った部分を面取りする作業）に大変な手間がかかったんです」

この手間をなくさなければスノコ事業を成長させることはできない。そう決断した瀬戸山社長は、人の手同様の精細な作業を短時間で行える多関節ロボットを導入します。

「スノコの製造を始めて3年ほどは手作業で行っていたので生産量が限られ、受注の機会をロスしていました。さらに納期に追われるとブロックの製造を止めて工場総出でバリを除去することもあったんです。

ロボットを入れて現場は大きく変わりました。月に200枚つくれる程度だったのが800枚つくれるようになりましたし、休み作業が減ったことで工具の体への負担も減りました。

宮崎でも特にこのあたりは畜産が産業の柱。その畜産をコンクリートスノコで支えることで地域に貢献していきたいですね」

case
10

窯業・土石製品製造業

有限会社 瀬戸山ブロック工業所

設立：1964年

代表取締役：瀬戸山 純之

資本金：500万円 従業員：9名

事業内容：建築用コンクリートブロック、

コンクリートスノコの製造・販売

〒889-4411

宮崎県西諸県郡

高原町大字広原4801番地8

TEL.0984-42-3460

FAX.0984-42-3461

ものづくり
補助金活用
ココが
ポイント！



手作業のような細やかさでバリを自動除去

生産量が
4倍！

1枚のコンクリートスノコを仕上げるのに必要な時間はわずか3分。しかもその間に作業員は他の作業をできるので効率が格段にアップしました。

